第79回 常設展示

流行歌に見る世相と大衆のこころ
―昭和のはじめから東京オリンピックまで―

平成9年3月25日～4月25日

歌は世につれ、世は歌につれ…。

流行歌には、それぞれの時代の息吹が背景に見え、私たちは流行歌の中に、それぞれの時代の世相やそこに生きる人々のこころをかいま見ることができるのです。

今回の展示は、日本が敗戦を経て復興し、空前の経済成長をとげるまでの激動の時代、昭和のはじめから復興の象徴である東京オリンピックまで、昭和の激動の時代に流行った歌に的を絞りました。

この展示を通して、過ぎ去った時代の息吹、そして誰でも知っている、誰もが思わず口ずさんでしまう歌と共に生きた人々のこころを感じて頂けたら幸いです。

展示資料一覧

< >内は請求記号

［戦前・戦中］

「東京行進曲」　昭４　作詞　西条八十　作曲　中山晋平　歌手　佐藤千夜子

この曲が登場した昭和４年は、「モガ・モボ」「モダン生活」等の流行語に見られるとおり、何につけ「モダン」という言葉がもてはやされた時代だった。そんな状況下、関東大震災後の復興により、一新された東京のモダン風景をふんだんに織り込んだ西條八十の詞と「晋平節」と呼ばれ人気を博した中山晋平の曲調がうけて、25万枚という当時としては大ヒットを記録した。

１．写真で見る　昭和の歌謡史　［Ｉ］戦前・戦中編

福田俊二編 **<KD841-E765>**

東京　拓殖書房　平3(1991)

２．唄の自叙伝

西條八十著 <911.9-Sa342u>

東京　生活百科刊行会　昭31(1956)

☆数々のヒット曲を生んだ西條八十の自伝。

「洒落男」　昭５　訳詞　坂井透　作曲　クルミット　歌手　二村定一

「モダン」という言葉がもてはやされた当時、外国のヒット曲が邦訳され、流行した。「洒落男」もその一つである。単純なメロディーと風刺の効いた訳詞がうけ、その後喜劇王エノケンの十八番になった。

３．歌歴五十年

丘十四夫著 <911.9-O418u>

東京　全音学譜出版社　昭29(1954)

「東京音頭」　昭８　作詞　西条八十　作曲　中山晋平　歌手　小唄勝太郎と三島一声

現在でも盆踊りの歌の定番として親しまれているこの曲も、東京行進曲と同じ西條八十作詞・中山晋平作曲である。発売以来 120 万枚を売る大ヒットとなった。東京中の広場という広場に櫓がくまれ、盆踊りが大流行したこの年は、日本が国際連盟を脱退した年でもあり、日増しに高まる戦争の機運や暗い世相に対する庶民の半ばやけとも言える心理が流行の背景にあると言われている。

４．歌でつづる大正・昭和日本の流行歌　上

上山敬三著 <767.8-Ka298n>

東京　早川書房　昭40　(1965)

「影を慕いて」　昭７　作詞・作曲古賀政男　歌手藤山一郎

昭和７年は、「酒は涙か溜息か」「丘を越えて」の連続ヒットで一躍スターダムに登り詰めた古賀政男作曲のこの曲が流行した。古賀の曲はそれまで主流であった中山晋平の「晋平節」に対し、「古賀メロディー」と呼ばれた。

５．別冊１億人の昭和史　昭和流行歌史　’85 最新増補版

永井康雄ほか編 <KD841-311>

東京　毎日新聞社　昭59(1984)

「戦友」　明 38　作詞　真下飛泉　作曲　三善和気

この曲はもともと日露戦争の直後に作られ、演歌師により全国へ広まったものであるが、突然の開戦により、戦地に赴く兵士を見送る際に皆で歌う適当な曲がなかったことから復活し、広く歌わ

れるようになった。

６．歌と兵隊　軍歌に忍ぶ明治百年の戦争

長崎武著 <767.6-N187u>

東京　軍事研究社　昭42(1967)

「露営の歌」　昭 12　作詞　薮内喜一郎　作曲　小関裕而　歌手　霧島昇と伊藤久男他

日中戦争が始まると、かつての兵士のための軍歌ばかりではなく国民全てが歌える「軍国歌謡」と呼ばれる歌が多く作られ、流行した。軍国歌謡の中には、懸賞公募により国民の中から生まれたものも多く、この曲も、当時の東日・大毎(現在の毎日新聞)の募集歌であった。

７．新版　歌の昭和史

加太こうじ著 <KD841-286>

東京　時事通信社　昭50(1975)

「雨のブルース」　昭 13　作詞　野川香分　作曲　服部良一　歌手　淡谷のり子

軍国歌謡の盛行により、流行歌は下火になった感はあったが、戦時色が立ちこめる中、大衆は流行歌謡にやすらぎを求め、若者たちはダンスホールに足を運んで束の間の憂さ晴らしに興じた。この曲は、前年の「別れのブルース」とともに流行し、淡谷のり子はブルースの女王とまで呼ばれた。

８．あのうたが聴こえますかー戦後 50 年歌物語

毎日新聞社社会部編 <KD841-E1321>

東京　音楽之友社　平7(1995)

９．酒・うた・男　わが放浪の記

淡谷のり子著 <767.8-A973s-t>

東京　潮文社　昭37(1962)

「麦と兵隊」　昭 13　作詞　藤田まさと　作曲　大村能章　歌手　東海林太郎

「麦と兵隊」は、日本軍の徐州作戦の苦しい先頭に従事した作家火野葦平の作品「麦と兵隊」をもとに生まれた歌である。

10．定本　日本の軍歌

堀内敬三著 <KD319-42>

東京　実業之日本社　昭52(1977)

「誰か故郷を想はざる」　昭 15　作詞　西条八十　作曲　古賀政男　歌手　霧島昇

ともに作詞・作曲の第一人者であった西條八十と古賀政男による望郷歌である。その切ない哀愁メロディーは、まず戦地の兵士たちの間で広まり、逆輸入され、国内でも大流行となった。こうした流行の仕方をした歌は、「雨のブルース」など他にも多数あった。

11.　あゝ昭和歌謡史 1　昭和元年－20 年

オン・ブックス編 <KD841-64>

東京　音楽之友社　昭52(1977)

「月月火水木金金」　昭 15　作詞　高橋俊策　作曲　江口夜詩　歌手　内田栄一

この曲は、昭和 15 年に発売されたがほとんど売れなかった。しかし、昭和 16 年 12 月 8 日真珠湾攻撃で海軍の活躍が脚光を浴びると一転大流行した。この「月月火水木金金」は、海軍ではかなり以前から使われていた言葉であり、休日など無いという海軍の猛訓練ぶりを現したものであった。

12.　ああ日本の軍歌百年

宮田輝監修 <Y78-1189>

東京　ルック社　昭45(1970)

［昭和 20 年代］

「リンゴの歌」昭 20　作詞　サトウハチロー　作曲　万城目正　歌手　霧島昇・並木路子

この曲は、戦後の焼け跡ではじめて流れた流行歌であった。並木路子の甘い声にのせて、幼稚で明るいメロディーが、敗戦に打ちひしがれた日本人のこころを慰めた。とはいえ、当時の食糧事情では、リンゴはかなりの高級品であり、それに対するあこがれもあったようである。

13.　思い出の歌謡物語　明治から昭和まで

豊田清修著 <KD841-E1087>

東京　中央アート出版社　平5(1993)

14.　流行歌でつづる日本現代史

高橋碵一著 <767.8-Ta275r>

東京　音楽評論社　昭41(1966)

☆当時ヤミ市で流行った替え歌。

「東京ブギウギ」　昭 22　作詞　鈴木勝　作曲　服部良一　歌手　笠置シヅ子

急激に進むインフレ、圧倒的な物資不足にあえぐ世情の中で、服部良一の取り入れたブギのリズ

ムが笠置シヅ子の歌声にのせて大流行となった。

15. 東京のうた　その心をもとめて

朝日新聞社編　<767-A839t>

東京　朝日新聞社　昭43(1968)

「異国の丘」　昭23　作詞　増田幸治　作曲　吉田正　歌手　竹山逸郎と中村耕造

昭和23年8月8日、NHKラジオの「素人のど自慢」で、シベリア帰りの青年がこの曲を歌って合格､以来大流行した｡この歌は､シベリア抑留を強いられた兵士が故郷を思い歌った望郷の歌で､続々と復員する兵士たちのこころを忍ぶ国民の同情の念が流行の背景にあった。

16. 別冊1億人の昭和史　昭和流行歌史

北島昇るほか編　<KD841-82>

東京　毎日新聞社　昭52(1977)

「青い山脈」　昭24　作詞　西条八十　作曲　服部良一　歌手　藤山一郎と奈良光枝

暗いニュースが多い中で､青春を謳歌する若い男女を描いた石坂洋次郎の新聞小説が人気を呼び､映画化され、戦後歌謡史を飾る大ヒット曲となった。

17. 写真で見る　昭和の歌謡史　［Ⅱ］戦後編

福田俊二編　<KD841-E765>

東京　拓殖書房　平4(1992)

「悲しき口笛」　昭24　作詞　藤浦洸　作曲　万城目正　歌手　美空ひばり

昭和最高の流行歌歌手　美空ひばりが最初にとばしたヒット曲である。戦後「のど自慢」がはやり、デビュー前の美空ひばりも出場し、鐘がならなかったという話がある。また、このころ浮浪児が社会問題化していたこともこの曲の背景にあった。

18. 平凡完全版最後の最後の歌本　美空ひばりさんあなたの歌で生きてきました！

大野勇志・佐藤優ほか編　<KD841-E374>

東京　マガジンハウス　平元(1989)

19. ひばりの自伝　わたしと影

美空ひばり著　<KD841-E331>

東京　草思社　昭46(1971)

「銀座カンカン娘」　昭24　作詞　佐伯孝夫　作曲　服部良一　歌手　高峰秀子

この曲が流行した昭和24年は、国産ナイロン靴下がはじめて市販された年でもあった。映画の「銀座カンカン娘」は焼け跡から芽生えた生命力に満ちた新しい日本女性を主人公にした、明るく健康的な喜劇映画だった。

20. 昭和のすたるじい流行歌　佐藤千夜子から美空ひばりへ

塩澤実信著　**<KD841-E596>**

東京　第三文明社　平3(1991)

21. 服部良一作品全集

服部良一編　**<767.8-H343h>**

東京　全音楽譜出版社　昭35(1960)

☆「古賀メロディー」の後、「服部メロディー」を作り出し、さまざまなヒット曲を次々に生み出した。

「テネシーワルツ」　昭27　訳詞　音羽たかし　編曲　村山芳男　歌手　江利チエミ

昭和20年代後半には、江利チエミの「テネシーワルツ」や雪村いづみの「想い出のワルツ」などが流行し、ジャズブームが起こった。十代歌手の彼女らは美空ひばりと並んで3人娘と呼ばれた。

22. 流行歌気まぐれ50年史

矢沢寛著　**<KD841-E1089>**

東京　大月書店　平6(1994)

［昭和30年代］

昭和30年に入り、「お富さん」のヒットの後、東京への憧憬のこころをそそる歌「有楽町で会いましょう」がはやり、「もはや戦後は終わった」といわれ、電気洗濯機・冷蔵庫・テレビの「三種の神器」である家庭電化と団地族が流行した昭和30年初め頃は、都会の憧憬とともに、都会に出た農村青年がその故郷を想う歌も同時に流行した。

23. 昭和流行歌の軌跡

池田憲一著　**<KD841-304>**

東京　白馬出版　昭60(1985)

「お富さん」　昭29　作詞　山崎正　作曲　渡久地政信　歌手　春日八郎

朝鮮戦争による特需景気で、国中が明るいムードであった当時、‘お座敷ソング’として大ヒットした。

24. サンデー毎日　11 月 28 日号

東京　毎日新聞社　昭29(1954)　<YA5-1007>

「リンゴ村から」　昭 31　作詞　矢野亮　作曲　林伊佐緒　歌手　三橋美智也

25. 流行歌と映画でみる　戦後の時代Ⅱ

遠藤典昭編　<KD841-344>
東京　国書刊行会　昭61(1986)

「有楽町で会いましょう」昭 32　作詞　佐伯孝夫　作曲　吉田正　歌手　フランク永井

26. 歌が語る　昭和はこんなに面白かった

野口雄平編　<KD841-E234>
東京　中経出版　平元(1989)

「俺は待ってるぜ」　昭 32　作詞　石崎正美　作曲　上原賢六　歌手　石原裕次郎

昭和 31 年に映画「太陽の季節」でデビューした裕次郎は、「太陽族」世代の出現としてジャーナリズムで騒がれ、兄の慎一郎とともに、若者の生き方や風俗に大きな影響を与えた。この曲は 160 万枚を突破し、最初の大ヒットとなった。

27. アンコール盤　俺は待ってるぜ　錆びたナイフ

石原裕次郎　<YMB11-21-13>
テイチクレコード　昭41(1966)

28. 歌は世につれ

丸山鐵雄著　<KD841-224>
東京　みすず書房　昭58(1983)

「スーダラ節」昭 36　作詞　青島幸男　作曲　萩原哲晶　歌手　植木等とクレージーキャッツ

この曲が流行した後も、植木等とクレージーキャッツは、「わかっちゃいるけどやめられない」「C 調」など多くの流行語を生み、「無責任時代」の到来としてもてはやされた。

29. あゝ昭和歌謡史２　昭和 21 年－51 年

オン・ブックス編　　**<KD841-64>**

東京　音楽之友社　昭52(1977)

30. スーダラ節　こりゃシャクだった

植木等　ハナ肇とクレイジー・キャッツ　　**<YMB3-50-24>**

東芝レコード　昭36(1961)

「上を向いて歩こう」　昭 36　作詞　永六輔　作曲　中村八大　歌手　坂本九

NHK テレビの人気バラエティ「夢で会いましょう」から生まれ、大ヒットとなった。前年の昭和 35 年は安保騒動の年で、「スーダラ節」やこの曲は、安保後の一種、政治的虚脱状態を反映していると言われている。

31. 週刊文春　7 月 1 日号

東京　文藝春秋　昭38(1963)　　**<YA-106>**

32. ベスト・カップル・シリーズ　上を向いて歩こう　幸せなら手をたたこう

坂本九　　**<YMB15-1-26>**

東芝レコード　昭43(1968)

「こんにちわ赤ちゃん」　昭 38　作詞　永六輔　作曲　中村八大　歌手　梓みちよ

「上を向いて歩こう」と同様に、「夢で会いましょう」から生まれた。経済成長の結果、かつての主婦のあこがれだった「三種の神器」はカー・クーラー・カラーテレビの 3C になり、人々は自分たちの生活に一応の満足感を持てるようになった。

33. こんにちは赤ちゃん　わすれな草をあなたに

梓みちよ　　**<YMB18-27-23>**

キングレコード　昭45(1970)

34. 週刊朝日　12 月 27 日号

東京　朝日新聞社　昭38(1963)　　**<YA5-1004>**

◎請求記号が YA ではじまる資料は、マイクロ資料でのご利用になりますので、展示期間中でもご利用になれます。
◎請求記号 YMB で始まる資料(ジャケット)は、音楽映像資料室で聴くことができます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)
ホームページアドレス http://www.ndl.go.jp

■国立国会図書館■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■